



岩手県人会ニュース

177

Rua Thomaz Gonzaga 95 - M Liberdade São Paulo SP Brasil CEP 01506-020

TEL/FAX (011) 3207-2383 E-mail ; iwate@iwate.org.br www ; iwate.org.br

2012年3月発行

定期総会と新年会 2012

1月22日(日) 第53回定期総会と新年会が行われた。総会は25名の出席により始まり、開会宣言、先没者への黙祷、千田会長の挨拶では、昨年度各種事業は会員皆さんの協力が無事終了した。感謝した。

多田マウロ孝則副会長が議長を務め、書記に菊池透、児玉道義、ミルトン両氏、議事録署名者に田口精基、多田マウロ両氏を選出、菊池透書記が事業報告、昆野昭仁ワシントン会計が経理を報告。



設を検討したい旨を発表。予算案は昨年と同じく10万レアルの案が承認された。総会后、石井紅夫賛助会員の乾杯の音頭で「新年会」がはじまり、会員持寄りの料理を味わいながら懇談。

またFDP記録映画の野崎さん持参の「笠戸丸移民100年の証言」を観賞。記録には岩手の人「駐伯第三代杉村澂公

使」について、県人会で整備した公使のお墓や資料などを交換描かれていた。

県人会の太鼓で活動している「雷神太鼓」が、一年間の成果を発表。腕をあげたようである。

太鼓奏者家族などで参加者も80名近くに膨らみ、豪華な景品が当

たるビンゴをこの楽しみ、午後4時前に閉会した。



平野マリア監査役が代表して所感を述べた。質疑応答後、会務報告は承認された。

2012年度事業計画では、通常計画をある部門で発展的に進展させたり、事業で得た利益の一部を積立てて「会員に還元する県人会基金の創

立

県人会上半期のプログラム

4月22日(日)「第49回会員交流誕生会・賀詞伝達」11時より開催。☆なお当日は達増拓也岩手県知事より「高齢者賀詞と記念品」が、多田登氏(宮守村・現遠野市出身)、和賀希耕氏(江刺市・現奥州市出身)、昆野ト子さん(江刺市出身)以上3名へ伝達されます。

☆また岩手県では今年から100才達成者を知事表彰する事になり、高橋啓一さん(花巻出身)、泉百吉さん(住田町出身)が現在健在です。22日間にあえば伝達予定。尚今後既に100才達成者、あるいは次年度達成者も表彰されます。

※ 食事は持寄りをお願いします。飲物、ケーキなどで用意します。

5月6日(日) 午前9時から東北ブロック青年部主催「第8回運動会」が行われます。盛り沢山の競技と賞品があります。

場所は昨年と同じ(Colegio Santa Amalia Rua Fiação da saude 480 Metro Saude 駅近く) ※参加者は1kgの食品をお願いします。集まった食品は慈善団体へ寄付されます。

5月27日(日) 第6回「わんこそば大会・大震災被災地復興写真展」が行われます。復興写真提供は岩手日報社に協力をお願いしております。

7月13・14・15日「第15回日本まつり」に参加します。皆さんのお手伝いをお願いします。

新しい年に県人会の活路を

会員皆様には新年を迎え新しい活路を見出し、ご健勝で暮らしの事と存じます。本年度もどうか宜しくお導きをお願い致します。昨年3月に皆さんの「ふるさと岩手沿岸地方」を襲った「東日本大震災津波」に対し、大変心を痛めた事と思います。現在被災地の皆さんはボランティアなどの支援を受けながら、挫けそうなる方を寄せ合って、一歩一歩前へと復興に向かっているニュースが流れており感動しております。

被災地皆さんには一時も早い復興を願ってやみません。県は復興を含めた大型予算を組み早期復興へ歩み始める事でしょう。

さて、我々の県人会ですが、一先先輩諸氏が築いた県人会も、天国へ旅立つ方が続出、遠くで足に自信がなく賛加出来ない、または、県人会をもうしようという方も少なくありません。ましては会費増額も控えざるを得ません。

これからの県人会は、どうすれば活路が見出せるか考えないといけない時期を迎えているのかも知れません。先の総会で大きな収益を上げた事業から、今後事業利益の何割かを還元基金に積立て、会員皆様にピクニックや、小旅行経費の何割かを還元してはと

提案しました。簡単ではありませんが、まずは実行してはと考えております。

それには皆さんの新しいアイデアや知恵をお願いしなければなりません。「役員がやってくれるから」と云う甘い考えでは、中々活路は開けないと思います。一人一人の会員皆様が、知恵を出しあい一丸となって取り組んで頂かないと会は衰退すると思います。皆さんのご提案を頂きたいと思っております。

「県費留学生研修生や2世3世皆様方へお願い」

皆さんの「祖父母のふるさと」で学んだ留学生・研修生は帰国後、習得した知識などを活用し、自国の発展に貢献し、親善大使として両国の交流などの使命も帯びております。

移住一世も高齢化しつつあり、県人会も若いリーダーに託す時期にあります。約半数の県人会長は2世3世です。岩手県人会でも母県で学んだ方々や優秀な県人子弟が多くいると思います。是非そうした方々が時代に合った新しい感覚で、県人会を引継いで頂きたいと願っております。

さて、来年2013年は県人会創立55周年を迎えます。(因みに県人移住は今年で94年)県人会が続かぎり親睦交流活動や周年事業は大なり小なりに欠かせないと思っております。よろしくお願ひ申し上げます。2012年2月 会長 千田 曠曉

感謝を込めて NYの岩崎様より

千田ご夫妻様はじめ会員皆様に於かれましては、お元気で輝かしい新年をお迎の事と存じます。



写真 県人会 50周年 式典参加時の岩崎さん

私ごと2月5日をもちまして、会発足以来13年間務めて参りましたNY岩手県人会の会長職を退任し、若いパワーに今後の会を託す事になりました。小生も高齢に達し、新時代のニーズに即時対応できなくなって来て居ります。数年前からできるだけ早い時点での世代交代を望んで参りましたが、今日に至ってしまいました。

昨年より、それまで2名だった幹事を一気に5名に増やし、皆さんには東日本大震災という大変困難な状況下で、団結し見事に会を先導して頂きました。これで心おきなく若い皆さんにバトンタッチすることが出来安堵致して居ります。

当会は1998年5月27日、当事岩手県の増田知事ご夫妻にご臨席頂き12名のチャーターメンバーで発足致しました。その後会員がどんどん帰国され、一時は4名ほどで、懇親会(総会)を開催した記憶もあります。現在当事のチャーターメンバーは2名しか在籍して居りませんが、その後、新しい会員もどんどん増え、現在では60世帯を越える大所帯となって居り、特に若い会員が多く、熱気に溢れた会に成長して居ります。

また、これまでの13年間、事あるごとに、岩手県、イワテケン、いわてけん、と所かまわず、吠え続けてきた効果でしょうか。会外の皆様にも認知されようになり、NYの県人会のリーダー役になって居ります。これも一重に皆様方の温かいご支援ご指導の賜物と心より

感謝致して居ります。

今後は若い幹事に会を託すこととなりますが、これまで以上に皆様方のご支援、ご指導を賜りますよう心より謹んでお願い申し上げます。小生は今後、微力ながら母県の災害復興支援に専任してまいる所存であります。

千田様をはじめ、ブラジル岩手県人会員皆様には、それこそ兄弟県人会の如くお付きあい、ご指導を頂戴して参りました。心より御礼申し上げます。今後とも変わりなきお付きあいを頂きますよう、よろしくお願ひも申しあげます。感謝を込めて

岩崎雄亮 7/2/2012

☆ 今後当会にご連絡頂きます時は、渉外担当の佐々木まり子幹事の方へお願いいたします。 E-mail marisa630@hotmail.com
尚、母県の復興支援については、小生が担当して参りますので、この件に関しては、小生の方に直接ご連絡頂ければ幸いです。



写真 東北ブロックNY 岩手県人会員皆様と郷土料理を出店 中央が岩崎さん

- 12月3日 自閉症青空学級発表会に千田会長夫妻出席
- 7 総領事公邸で開かれた天皇誕生日会(77才)に会長出席
- 10 餅搗き大会あり、搗いた餅好評で完売
- 11 忘年会・第48回誕生日会あり
- 12 賛助会員丹野清人さん(都立大学教授)来館、今年3回目
- 15 県連代表者会・忘年会に会長出席、震災一周年追悼法要委員会、県連基金委員に推薦される。
- 16 岩手県の菅原圓雄さん、吉田恭子さん、吉田英子さんに電話
- ☆ 賀状と写真で見る県人の1年作成、
- 21 県連基金委員会に会長出席、
- 22 大震災1年追悼法要委員会に会長出席。
- 27 会報176号を435部発送
- ☆ 花巻の渡辺勉氏より「世界は今・県人レポート、高橋祐幸さん」と、岩手県十大ニュースのファックスあり、
- 28 県助成金契約書送付について国際課から連絡。仕事納め
- 2012年1月4日 午後より開館、昆野君は会計を処理、メール多数受信し返信する
- 6 大川令子さん夫妻と子息(陸前高田出身)来館
- 11 国際課山田さんより、県費留学生について受信。東ヴァネッサさんに連絡
- 12 東さんより返信。渡辺氏より電話。県連基金会合に会長出席
- 13 金ヶ崎高橋町長さんより新年のメッセージ受信
- 14 役員会開催 議題は定期総会、震災犠牲者1周年追悼法要、被災県支援カラオケ大会、55周年式典について
- 17 震災追悼法要委員会に会長出席。諸団体共催になる見込み
- 19 サンパウロ新聞企画「日本移民、日系人の道程」の取材あり、
- ☆ 県より定期刊行物、農業普及12・1月号、いわてグラフ1月号の送付あり、

- 22 第53回定期総会、新年会開催
- 23 県国際課より事業実績書送付について受信
- 25 県助成金に関する書類作成 ☆ サンパウロ市制498年記念日
- 26 県へ書類送付。県連代表者会に会長出席。懇親会あり
- 28 金ヶ崎町より出身者へ町広報誌7冊送付あり、配布す
- 31 岩手日報社に「被災地復興写真展」お願い状を発信。
- ☆ 松本トミさんから「わかめ送付」について電話あり
- 2月6日 盛岡の吉田恭子さんから、賛助会役員会について受信
- 7 国際課の伊東さんから実績報告書受領と賀詞送付の知らせ
- 8 岩手民謡協会藤沢会長より、賛助会員入会快諾のメール
- ☆ 山中正二ベレン県人会会長来館され懇談
- 10 岩手日報松尾さんから、復興写真展について受信
- 11 役員会開催 行事日程の検討、会館家屋税、被災地復興写真展、2013年の創立55周年など
- ☆ 佐藤君の料理試作・試食会(オムライス、ハンバーグ、コロッケ)



- 13 橋本大武いざなぎKK代表「所在地横浜」が来館し懇談
- 14 国際課の山田さんから、東さんの留学生受け入れについて受信
- 17 パラナの苔米地さんへ川崎重工からの依頼を郵送。☆ カーニバルが今夜から開始
- 22 川崎ド・ブラジル沢里嘉男副社長が苔米地さんの事で来館
- ☆ 伊東主査より100才表彰について。☆ 岩手日報読者センター東山耕三氏から「被災地復興写真展」について受信
- 23 達増拓也岩手県知事より3月11日開催される「東日本大震災追悼法要・復興祈願」へのメッセージが国際課から送信あり
- 27 盛岡在住の東北大(仙台)で学ぶ、都市工学部3年の川守田智さんが来館し懇談。環境都市クリーバを訪問予定

会費納入者名(敬称略,年額R\$75.00)
会費納入ありがとうございます

寄付・寄贈
12月-1-月-2月 お茶菓子 佐々木憲輔、来館者多数、

- 12月 宮城義治(賛助会員)、山道慶大(2012)、山口しのぶセシリア、長野長勇(2012)、井貝須磨子、川村益男ネルソン、富沢弘、崎田信行アフォンソ、切田正巳、泉政秀、藤堂勝次、猫塚もり、伊藤和広、渡辺誠一、野村武雄、内海博、山中正二、鈴木要人、鈴木秀人、高橋佑幸、藤沢晴巳、高橋たかお、
- 2012年1月 小崎敬子(賛)、昆野昭仁ワシントン、昆野とし子、藤村光夫、千田曠暁、東ヴァネッサ、石井克美(賛新)、関めい子、武田栄一、田口精基、田口晃記、高橋よしこ、塚田よし子、野村なおみ、野村みつ子、浅見マリア、菊池達郎、岩上エリカ、千田輝海、千田まさ、川村益夫ネルソン、菊池透、小畑とも子、伊藤いんこ、さききけんすけ、さききけんじ、ちばなほよし、ただけほろ(賛)、かじはら、おおもり、なかむらおさお、いわさきゆう、梶原まさ子(賛)、大森みどり(賛)、中村修子(賛)、岩崎雄亮・岩崎ひろみ(ニューヨーク賛)、
- 2月 多田孝則マウロ、多田登、村松弘一、佐々木進ジョゼリス、小原アヤ、及川秀義、佐々木寛一、和田司(賛)、谷田部昭代(賛)、田口裕久(新・賛)、石原吉三(新・賛)、石崎一喜(賛)、石井紅夫(賛)、畑勝喜、阿部正司、阿部貴司アイレス、3月 大志田寿、久保和子、菊地義治、伊藤範夫(賛)、阿部安忠、

図書寄贈
12月 片山ミエ子 2冊、中村修乎 25冊、倉谷和憲 3冊
丹野清人 4冊、宇野あいこ 23冊、無名 3名 3冊、
2012年1月 無名 1名 3冊、新橋 13冊、小池誠 9冊、
平野マリア 28冊、中村修子 6冊、2月 原島義弘 14冊、
無名 3名 5冊、3月 和田司 19冊、レストラン甚六 25冊、

図書利用
12月 781冊、166名、年間利用数 8,790冊、2,067名
2012年1月 652冊、154名、2月 746冊 163名。
岩手文庫1月の蔵書数 19,145冊、16/2/12

来館者数(M階) 1階ホール利用者は含まれません
12月 404名、2011年の来館者数 5,730名
2012年1月 348名、2月 402名、
逝去「国成アンジェロさん(80才)」は、2月20日逝去と妻貞子さんから知らせがありました。平成11年度研修生 国成精一ジュベニルソンの父

だいしんさいいっしゅうねんついと う 3・11 大震災一周年追悼ミサと復興祈願

3月11日(日)午後2時から、日系5団体とブラジル仏教連合会、被災地6県人会合同、邦字紙2社後援で「東日本大震災犠牲者一周忌追悼法要、並びに復興祈願」が日本文化福祉協会大講堂で開催され、約700名が改めて犠牲者の冥福を祈り、早期復興を祈願した。



がると伺っており、母国の復興を願う皆様のお気持ちに、改めて感謝申し上げます。昨年3月11日を境に、私たちの生活は一変しましたが、あらゆる生命を尊び共に生きるといふ世界遺産平泉の理念を胸に、一日も早い復興に向け県民一丸となって、取り組

はじめに仏教婦人部のコーラスがあり、委員長の木多文協会長は「被災地へ今後も支援を継続し日本の再生を祈る」と述べ、大部一秋総領事は「コロナからの震災支援に対し感謝と謝意を表明」。

実行委員長で県連の園田会長が読経の中、焼香し追悼の辞を述べ、総領事、日系団体長や被災地県人会長、一般参拝者も犠牲者の追悼と復興を祈りながら焼香。震災発生時間の午後2時46分、参拝者一同は様々な想いを込めて黙祷。宮城、岩手、福島



県人会会長が「母国知事のメッセージ」を代読した。達増拓也岩手県知事は「未曾有の大震災に対し、国内外から頂いた多くの支援や励ましのメッセージは、私たちを大いに勇気づけられ、中でもブラジルの日系人・日系諸団体が日本へお寄せ下さった義援金は約6億円にも上

りしておりますので、皆様方におかれましては、故郷の復興に対し、引き続きご支援下さいますようお願いいたします」(岩手県知事さんのメッセージから抜粋)

「震災遺児を支援するプロジェクト命」の子供たちが「いのち」を合唱、国際交流基金提供の被災地映像が映し出され、最後に菊地援協会長が「母国を支援する事がコロナの活性化につながる」と挨拶し幕を閉めた。法要には被災県からボランティアが参加、当会から多田マウロ副会長と今年度県費留学予定者の東ヴァネッサさんが受付や案内役を務めた。(写真は式終了後会員の皆さんと) ※31月14日は総領事公邸で追悼式があった。

「震災遺児を支援するプロジェクト命」の子供たちが「いのち」を合唱、国際交流基金提供の被災地映像が映し出され、最後に菊地援協会長が「母国を支援する事がコロナの活性化につながる」と挨拶し幕を閉めた。法要には被災県からボランティアが参加、当会から多田マウロ副会長と今年度県費留学予定者の東ヴァネッサさんが受付や案内役を務めた。(写真は式終了後会員の皆さんと) ※31月14日は総領事公邸で追悼式があった。



おめでとう！ 菊地さん

第40回医療功労賞・海外部門で受賞



3月7日 読売新聞社主催「医療功労賞」(厚生労働省、日本テレビ放送網後援、大手製薬会社協賛)海外部門で、サンパウロ日伯援護協会会長の菊地義治さん(71才、一関市出身)の受賞が発表され、16日東京で授賞式が行われた。

菊地さんは1959年産業開発青年隊員として

移住。家業の傍ら岩手県人会会長(4期)、県連副会長、97年から援護協会理事、副会長、2011年援協の会長に選出された。

日伯友好病院の運営や自閉症学級の創設に積極的に貢献し、今回医療活動海外部門で認められた。菊地さんは「皆さんのお陰、今後も日系やブラジル社会の支援に尽くしたい」と受賞の感想を述べた。

写真 上 菊地さん、下 援協本部



提言 二度と出さぬ犠牲者・被災者 大堤防を兼ねた沿岸道路を

昨年3月11日の東日本大震災・津波で多くの犠牲者や被災者、あらゆる建造物が波にのまれた。震災一周年にあたりニッケイ新聞から寄稿を依頼され「一年間の想い」「大堤防を兼ねた沿岸道路」と書いた。

あの災害の大津波から被災地域を守る事を祈り「大堤防兼沿岸道路」を建設。海側には波砕ブロックを付けてはと考えた。強固な高架道を作るつもりで、先ず高さ20m以上であれば相当の津波でも抑える事が出来、20mを超えても例えば岩手県普代村の水門の高さが15.50mあったが、それを超えた津波は上流300mまでしか届かなかったと伝えていた。20m超の堤防があればある程度被災地を守ることが出来るのではと考える。

沿岸道路各所に大きなロータリーを造成、生活道路や景観が望める空間を設置すれば、海や市内或いは山々の景観も望めると思うが夢ではないと思います。

お詫び 今号の発行が大変遅れたことお詫び申し上げます。次号からは調整して、会員皆様の手元に早く届くようにしたいと思います。配布された会報はルビが一部間違っていました。編集者

とうほくせんぱつじょしこうこうせい
東北選抜女子高校生
 せんしゅだんらいはく
サッカー選手団来伯



2月29日 東日本大震災で親を亡くした「震災遺児」を救済のため、募金キャンペーンを行っている「あしなが育英会」が引率して、東北女子サッカー選抜チーム（16-17才）一行との記者会見が宮城県人会館で行われ、岩手県から1名いるとの事で千田会長が参加した。一行は27日サンパウロ着。（選手は宮城11名、福島5名、岩手から震災遺児1名、関係者など計22名）育英会は震災遺児施設「レインボーハウス（虹の家）」建設を計画。

支援募金キャンペーンをアメリカ、中国、ヨーロッパで活動を行った。同会は「交通遺児」も支援し既に8万5000人ほど高校や大学に進学させている。

今回「東北津波遺児高校生」として活動に加わった「佐々木証

道さん」写真右（16才、リックゼンタかだしは、母と祖父父母が津波の犠牲になり、父と18才の姉が残った。佐々木さんは震災遺児として、育英会の支援を受けながら大船渡高校に通っている。



同選手団は、滞在中3回現地女子チームと練習試合を3月1日2日行う。4日はアトランチコチームとの親善試合は、観客約1000人が見守る中1×1で引分けだった。



※ 新聞報道によると「あしなが育英会」へ日系団体から50万円を寄付。他団体からも支援募金があったとの事。

しゅうせいちょう だいしんさいふっこうしゃしんでん
州政庁で「大震災復興写真展」



3月1日夜、総領事館提供の被災地復興写真展が、州政庁 (Palácio dos Bandeirantes) で開幕式があり100名ほどが出席。

コロナ団体会長や被災県人会長も招待され、来伯中の東北女子高校サッカー一行も加わった。式後サロン回廊に展示された写真を観賞。写真は55枚で被災当時や復興の兆しが観賞された。

同展示会は1週間展示され一般にも開放される。各写真には残念ながら「地名や解説」がなかった。



かんじ
漢字に「ルビ・ふりがな」は、いかがでしたでしょうか？

会報176号12月発行では、県人子弟の方々に「日本語に親しんで頂こう」と、漢字に「ルビ・かな」をつけました。会員2・3世やその子弟の皆さんには、子供の頃各地の日本人会などで日本語を勉強した人々が多くいたと聞きます。

仮名が付いたら日本語文でも読んでみようかな、と思った人がいたと聞きました。編集子（紙面を書いている人）は日本語先生ではありませんから、自分も勉強しながら仮名をつけております。今後は「ルビ」をつけたいと思しますので宜しく。

小さい頃、学んだ日本語を大事にしましょう。今後日本語は皆さんの将来にきつと役立つことと思います。

高橋金ヶ崎町長様からのメッセージ

いわてけんじんかいていきそうかい しんねんかい 岩手県人会定期総会・新年会へのメッセージ

いわたてけんじんかい かいちょう ちだ ひろあき さま
ブラジル岩手県人会 会長 千田曠暁 様

しんねん あ
新年明けましておめでとうございます。今
とし おおゆき おだ しやうがつ す
年は大雪もなく穏やかな正月を過ごしなが
ら、あたらしい年へ希望に胸をふくらませており
ます。ブラジル岩手県人会皆様におかれま
しても、晴れやかに新年をお迎えになられ
たこととお慶び申し上げます。



高橋由一金ヶ崎町長

この度は岩手県人会の定期総会、新年
かい せんだい とり おこな
会が盛大に執り行われますこと、まことにおめでとうございます。
みなさま いちどう つど
皆様が一堂に集い、ふるさとの事を思い出しながら、和やか
な時間をすごされる機会があるということに、私もここ金ヶ崎か
ら本当にうれしく思っております。

さて、2011年は痛ましい大震災に見舞われ、日本全体が
かな つつ いちねん さいわ とうちよう お
悲しみに包まれた一年でありました。幸い当町に於いては、そ
こまでの大きな被害はありませんでしたが、沿岸被災地の甚大
な被害を知るにつけ、これまで当たり前だった日常が一瞬にし
て奪われてしまった事に、心が押しつぶされるような日々でし
た。

そんな中、県人会の千田会長からは、いち早くお見舞いのお
でん わ いただ けいじよう はげまされるおもいでありました。きよりはなれ
電話を頂き非常に励まされるおもいでありました。距離は離れ
ていても、千田会長、そして県人会皆様のお心が「いつも日

ほん いわたてけん かねがさきちよう こと かん そんざいの
本、岩手県、金ヶ崎町」にあるという事を感じ、その存在の
大きさを改めて感じたところです。

しんさい げつあま す ひさいち こくないのみならず かい
震災から9カ月余りが過ぎ、被災地では国内のみならず海
が い はげ とも ふっこう む いっそうはげ
外からの励ましと共に、復興に向けて一層励んでおります。
かねがさきちよう しんさいい こうで きかざ しえん つす
金ヶ崎町でも震災以降出来る限りの支援を続
けております。

せんじつ がつ にち おおふなとし ひさい
先日1月7-9日には大船渡市から被災し
た子供たちを当町に招き、当町の子ども
とこりゆうじぎょう おこな ほくか にてい
交流事業を行いました。2泊3日の日程の
なか さまさま とお たが ふ あ
中で、子供たちは様々なプログラムを通して、互いに触れ合い
ながら笑顔で過ごしました。震災によって失った日常を、少し
でも取り戻せるような時間であったのではないかと思っておりま



す。今後も様々な形で復興に向けて取り
組んでいければと思っておりますので。どう
ぞ、県人会の皆様も引き続き温かいご支
援をお願い致します。

2012年は「ブラジル、日本、そして世界の皆様が手を取り
あ よろこ み いちねん こころ ねが
合い」ながら、喜びに満ちた一年になるよう心から願っており
ます。末筆になりますが、ブラジル岩手県人会のますますのご
はってん みなさま けんこう きねん あいさつ
発展と皆様のご健康をご祈念し、挨拶とさせていただきます。

(写真 広報 かねがさき より)

へいせい ねん がつ にち かねがさきちようちよう たかはし よしいち
平成24年1月11日 金ヶ崎町長 高橋 由一

EVENTOS EM MEMÓRIA DO DIA 11 DE MARÇO

EXPOSIÇÃO DE FOTOS NO PALACIO DOS BANDEIRANTES

Realizado no dia 01/03, com mostra de 55 fotografias tiradas no dia do
Tsunami e após a reconstrução.

Prestigiaram a exposição cerca de 100 pessoas entre autoridades e
representantes da colônia nipo-brasileira.

CULTO ECUMENICO DE 1 ANO

Realizado no dia 11/03 no auditório principal do
Bunkyo, com a participação de aproximadamente
700 pessoas. Neste dia participaram 16 pessoas do
Iwate Kenjinkai.



Em memória ao grande desastre natural ocorrido no dia 11 de
março do ano passado que vitimou mais de 19 mil pessoas em
todo Japão, foram realizados neste mês, vários eventos dos quais
descrevemos os dois mais representativos.



EDITORIAL DE INÍCIO DE ANO

Em nome de toda Diretoria, reiteramos nossos votos de muita saúde e de um ano cheio de realizações para todos os associados e familiares. Este ano esperamos novamente contar com a ajuda e colaboração de todos.

As recentes notícias mostram que a população de Iwate, aos poucos, mas com passos firmes e seguros, vem demonstrando a sua capacidade de recuperação, o que nos deixa muito felizes. No Kenjinkai, a partir deste ano, pretendemos destinar um percentual do lucro obtido nos eventos, em prol dos associados, subsidiando os passeios e excursões que pretendemos realizar.

Esta sugestão foi dada na Assembléia Geral deste ano. Pedimos a todos que nos enviem mais sugestões como esta, para que possamos melhorar cada vez mais.

Finalizando, gostaria de pedir aos ex-bolsistas e seus familiares, maior apoio e participação. O futuro do Kenjinkai, constituído há mais de 55 anos com muito esforço e carinho pelos imigrantes pioneiros está nas mãos de vocês. Deposito toda minha esperança e confiança em vocês para continuidade do Kenjinkai.

ASSEMBLÉIA GERAL 2012 E SHINNENKAI



A assembléia foi realizada em 22 de janeiro, com a participação de 25 associados. Escolhido entre os presentes para presidir a Mesa, o Mauro Tada, nomeou as seguintes pessoas para auxiliá-lo na condução dos trabalhos. Secretários : Milton Kodama e Tooru Kikuchi, Assinantes da Ata : Seiki Taguchi e Mauro Tada. A assembléia iniciou-se com 1 minuto de silêncio em respeito as vítimas do Tsunami e na sequência pelas palavras de boas vindas do Presidente Hiroaki Chida. Foram lidos o relatório anual de atividade por Tooru Kikuchi e o relatório contábil e fiscal por Washington Konno. O parecer do Conselho Fiscal foi dado pela representante do conselho Maria Hirano que aprovou as contas do exercício 2011. Após a finalização da assembléia tivemos o Shinnenkai com a participação de 80 pessoas.

SELEÇÃO FEMININA JAPONESA SUB 18 REALIZA AMISTOSO NO BRASIL



A organização educacional japonesa sem fins lucrativos ASHINAGA, conhecida por ajudar as crianças órfãs de pais falecidos em desastres

naturais, trouxe a seleção japonesa feminina sub 18, composta por jogadoras de Tohoku, para realizar amistoso no Brasil.

O objetivo da campanha foi arrecadar fundos para ajudar as crianças que perderam os pais no Tsunami ocorrido no ano passado. Escolhido como representante das crianças, veio ao Brasil acompanhando as jogadoras, o jovem SHODO SASAKI de 16 anos, natural e Rikuzen Takata-shi, Iwate-ken, que perdeu sua mãe e avós no Tsunami.

O jogo amistoso foi realizado no dia 04/03 contra equipe do Juventus da Mooca, no estádio da Rua Javari e terminou empatado em 1 a 1.



ANUIDADES RECEBIDAS

(DEZEMBRO/11) Yoshiharu Miyagi, Cecilia S. Yamaguchi, Sumako Igai, Nelson Masuo Kawamura, Hiroshi Tomizawa, Afonso Nubuyuki Sakita, Masami Kirita, Masahide Izumi, Katsuji Todo, Mori Nekozuka, Kazuhiro Ito, Seiti Watanabe, Takeo Nomura, Hiroshi Utsumi, Shoji Yamanaka, Kaneto Suzuki, Hideto Suzuki, Yuko Takahashi, Haremi Fujisawa, Takao Takahashi (JANEIRO/12) Yoshihiro Yamamichi, Choyu Nagano, Kosaki Keiko, Washington Akihito Konno, Toshiko Konno, Mitsuo Fujimura, Hiroaki Chida, Vanessa Higashi, Katsumi Ishii, Meiko Seki, Eiichi Takeda, Seiki Taguchi, Kouki Taguchi, Yoshiko Takahashi, Yoshiko Tsukada, Naomi Nomura, Mitsuko Nomura, Mario Asami, Tatsuro Kikuchi, Erica Iwakami, Terumi Chida, Masa Chida, Nelson Masuo Kawamura, Tooru Kikuchi, Tomoko Obata, Ineko Ito, Kensuke Sasaki, Kenji Sasaki, Naoyoshi Chiba, Haruo Takeda, Masako Kajihara, Midori Omori, Osao Nakamura, Yusuke Iwasaki, Hiromi Iwasaki. (FEVEREIRO/12) Mauro Takanori Tada, Nobori Tada, Koichi Muramatsu, Jose Luiz Susumu Sasaki, Aya Ohara, Hideyoshi Oikawa, Kanichi Sasaki, Tsukasa Wada, Akiyo Yatabe, Hirohisa Taguchi, Yoshimi Ishihara, Kazusa Ishizaki, Kofu Ishii, Katsuyoshi Hata, Masashi Abe, Ayres Takashi Abe (MARÇO/12) Hisashi Oshida, Kazuko Kubo, Yoshiharu Kikuchi, Norio Ito, Yasutada Abe,

NOTA DE FALECIMENTO

Angelo Kuninari, faleceu no dia 20/02 aos 80 anos em São Paulo Capital. Kuninari-san era pai do nosso colega ex-bolsista Juvenilson Kuninari

Associação Cultural e Assistencial Iwate Kenjinkai do Brasil
Rua Thomaz Gonzaga 95-M Liberdade São Paulo Brasil CEP 01506-020
TEL/FAX (11) 3207-2383 www.iwate.org.br e-mail iwate@iwate.org.br
フウシル岩手県人会ニュース 177号 2012年3月発行

Associação Cultural e Assistencial Iwate Kenjinkai do Brasil
フウシル岩手県人会

しゃしん 写真 3・11 「東日本大震災一周年犠牲者追悼法要と復興祈願」 サンパウロ
ひがし に ほんだいしんさいいっしゅうねん ぎ せいしゃついとうほうよう ふっこう き がん



写真提供
伊東 信比古さん

